

Chuo University

# FLP

Faculty-Linkage Program

## ファカルティリンケージ・プログラム 2026

### 学部の垣根を越えた、 刺激的な学びの場

FLP(ファカルティリンケージ・プログラム Faculty-Linkage Program)は、幅広い学問領域をもつ総合大学のメリットを活かした教育プログラムです。所属学部で主専攻を修めながら、学部の枠を越えて設けられたプログラムを体系的に学修することで、複数の専門知識をもった学際的な視点を身につけることができます。



### ■ 新たな知識領域を広げる5つのプログラム

主専攻の学びにプラスして、他分野の高度な専門知識や能力を身につけられるFLPは、中央大学のどの学部の学生でも履修することができます。他学部の学生と一緒に学ぶため、知的な刺激が生まれ、ゼミの仲間たちとの交流を通して、視野や人間関係が広がるのもFLPならではの魅力。以下の5つのプログラムを設置し、学生の知的興味や好奇心に応えています。

#### 01 環境・社会・ガバナンス プログラム

環境問題を複数の視点から学び、自然と調和しながら社会活動を継続させるために必要な取り組みについて考え、よりよい解決策を提起できる能力を養います。

#### 02 メディア・ジャーナリズム プログラム

記者、ディレクター・プロデューサー、アナウンサー、編集者、コンテンツ・クリエイターなど、さまざまなメディアの世界で活躍できる人材を育成します。

#### 03 国際協力プログラム

開発途上国の諸問題を、経済開発、社会開発(教育、保健・衛生、ジェンダー等)、環境、国際協力などの多角的な視点から総合的に研究し、格差・貧困問題の解決に貢献できる能力を養います。

#### 04 スポーツ・健康科学 プログラム

スポーツを健康、医療、文化、ビジネス、サービス、行政などとの関連の中で多面的に理解し、幅広い分野でスポーツの発展に寄与できる能力を養います。

#### 05 地域・公共マネジメント プログラム

さまざまな課題を抱える地方自治体の要望に応えられるよう、専門的な知識やスキルを修得。地域社会で、課題解決の政策形成を担える能力を養います。

### ■ ゼミ形式の学び + 実践的なフィールドワークの学び

FLPの学びの中心となる「演習科目」では、少人数のゼミナール形式で研究を行います。興味のあるテーマの調査・研究を自主的に進めながら、ゼミの仲間とディスカッションをしたり、見学調査や実態調査などのフィールドワークも行います。

### ■ 卒業単位として認定されるFLPの修得単位

プログラムで修得した演習科目(12単位)と講義科目の単位は、原則として全て所属学部の単位(卒業単位として認定)になるので、所属学部の学修と両立して無理なく知識を深めることができます。

01

## 環境・社会・ガバナンスプログラム



### 自然科学と社会科学の視点から環境問題の解決策を探る。

持続可能な社会づくりに必要な知識や能力を身につけるために、人間と環境の調和がどのように図れるかを自然科学と社会科学の両面から探るべく、生態系の構造や機能について調べたり、環境評価や環境に関する合意形成や意思決定について学んだりします。各分野の理論や研究手法の学びに加えて、現地調査や現場で活躍する国内外の実践者との交流を重視しており、企業、行政、民間団体など様々な立場で環境問題の解決に貢献できる人材を育てます。

#### 2026年度の開講テーマ例

データ分析から環境と社会経済のつながりを考える／社会問題に対する経済学的アプローチ／環境水中のプラスチック汚染調査／水辺の健全かさ調べ(湖沼または河川)／環境・社会・政策脳科学

#### 将来の進路

国家公務員・地方公務員をはじめ、建設、運輸、旅行、金融・保険、新聞・放送、メーカーや大学院進学などの進路実績があります。

02

## メディア・ジャーナリズムプログラム



### デジタル時代のジャーナリストを育てる！

本学は長谷川如是閑や杉村楚人冠をはじめ、日本のジャーナリズム史に残る著名人を多数輩出しています。この伝統を継承し、さらなるジャーナリズムの発展に貢献するために開設されたのが、本プログラムです。演習は、実際のマスコミ業界において、新聞記者、放送局報道ディレクター、ドラマ・プロデューサー、アナウンサーなどを務めた実務経験者等が担当します。すでに、20年の歴史をもつ本プログラムからは、150人を超える人材をNHKをはじめとするマスメディア業界に送り出しています。

#### 2026年度の開講テーマ例

メディア・ジャーナリズム・ICTの法と倫理／ドキュメンタリー制作およびノンフィクション執筆の実践／“パブリックスピーキング”のスキルと社会を切り取る「視点」を身につける／新聞等の既存メディアからネットメディアまでマスメディアの全体状況を理解すると同時に、事実や自分の考えを正確に伝える文章力を身につける／映像を読み解くための基礎的視点・映画・ドラマを通じた社会とメディアの考察・社会とつながる映像制作の基礎実践・上級学年につながる分析と制作の往還

#### 将来の進路

新聞・放送・出版・広告などのマスメディアのほか、通信、印刷、運輸、メーカー、公務員、大学院進学などの進路実績があります。

## 国際協力プログラム



### 途上国の開発や格差・貧困に 関連する問題の解決法を探る。

開発途上諸国では、さまざまな面で格差が大きく、多くの人が現在も貧困にあえいでいます。本プログラムは、格差是正、貧困削減に貢献する人材の育成を目指して開設されました。「経済開発」「社会開発」「国際協力」といった視点から、途上国の開発などについて総合的に研究するとともに、その過程で、語学力や異文化コミュニケーション能力も養います。演習科目では、アジアの途上諸国を対象にして現地調査も実施しています。

#### 2026年度の開講テーマ例

社会構成主義の視点から考える言語・共生・国際協力／発展途上国の格差・貧困問題と経済・社会開発:学際的・現場重視型アプローチ／企業・産業の国際比較～グローバル思考養成のために／〈ひとのつながりの新たなかたち〉を構想する惑星社会のフィールドワーク／開発学を通して途上国を理解する／変わりゆく世界と新たな国際協力のありかた／日本のODAと地方創生の環流:実務的アプローチ

#### 将来の進路

国連や JICA といった途上国開発関連の機関をはじめ、JICA 海外協力隊、国際協力 NGOs、商社、メーカー、金融機関、コンサルタント会社（開発、経営）、放送・新聞業界、国家公務員（外務省含む）、教員、国内外の開発系大学院進学などへの進路実績があります。

## スポーツ・健康科学プログラム



### スポーツで社会を変える 人材の育成をめざす。

スポーツは今、健康、医療、ビジネス、エンタメ、行政など、無限の可能性を秘めています。このプログラムでは、スポーツを多面的に学び、未来の可能性を切り開くためのスキルを身につけることができます。例えば、スポーツとウェルネスを組み合わせた新しい提案や、スポーツビジネスの発展を支える知識の習得など、あなたの興味や情熱を活かした学びがきっと見つかります。スポーツの価値を新しい形で社会に届けるための道を探しながら、未来をデザインするリーダーとしての第一歩を、一緒に踏み出しませんか？

#### 2026年度の開講テーマ例

スポーツの疑問を考える／スポーツ心理(認知・行動)部分を知る／日本における競技スポーツ文化を考える／剣道を通じたビジネスおよび海外文化の理解／パフォーマンスの測定・分析／スポーツを通じた国際協力の理論と実践／スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

#### 将来の進路

スポーツ産業界（Jリーグ、球団、スポーツメーカー、広告代理店、介護ビジネス）をはじめ、各スポーツ機関（日本アンチドーピング機構、日本陸上競技連盟など）、行政機関（各自治体職員）や教育機関（大学職員等）、大学院への進学など、多様な進路実績があります。



## 地域の課題を直視し、ニーズに応え、豊かな暮らしを構想する。

地域・公共マネジメントプログラムでは自治体行政や地域での取り組みをテーマとしています。それは、地域こそが問題が生起し、解決策が届けられるべき場であるからです。プログラムでは、子育て・教育、福祉、人権、治安、経済、財政といった幅広いトピックを取り上げ、学際的な学びを活かす姿勢を確立しその方法論を考えます。公務員のキャリアにとって、いずれかの地域で事業を展開するうえで、また、いずれかの地域の住民として生活するうえで、大切な学びとなるものです。

### 2026年度の開講テーマ例

地域資源を活かした地域経営を考える:そのための地域資源の再発見・再評価、マネジメント/持続可能なまちづくり—公共事業の視点から—/現代日本社会において人びとが生きていく場所としての地域を考える/地域に寄りそい、ひとにところを寄せるフィールドワークと子どもたちが「生きやすい」コミュニティづくり/スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究/地域社会における社会安全政策/「大学は社会のために何ができるか」を考える

### 将来の進路

多くの国家公務員・地方公務員をはじめ、電気、建設、不動産、金融・保険や大学院進学などの進路実績があります。

## 履修生 Interview



### FLP で学んだジャーナリズム

#### メディア・ジャーナリズムプログラム

総合政策学部 国際政策文化学科 4年 (2026年1月現在)

小西 結音 KONISHI Yuine

私はメディア・ジャーナリズムプログラムの松野良一ゼミに所属し、中央大学出身の特攻戦死者を調査する「特攻と中央大学」プロジェクトに取り組んでいます。2年次から全国10箇所以上に足を運び、中央大学の先輩が特攻で命を落とした事実やご遺族の思いを執筆や映像作品として記録してきました。

取材先の方に「兄の死を忘れられなくなかったから、来てくれてありがとう」と伝えてもらったことがあります。FLPで実践的な調査に取り組めたからこそ出会えた声だと感じ、今でも心に残っています。

本活動を通して、歴史に埋もれた事実を掘り起こし、世に発信できるジャーナリズムの可能性を体感し、テレビ局への就職を決めました。今後も人々の役に立つ報道ができるよう努めてまいります。

### ■履修時の注意

プログラムは、新規開講・廃止することがあります。1年次後期に選考試験を行い、2年次からプログラムが開始します。FLPにて開講されている全プログラムには定員があり、希望者全員が履修できるわけではありません。

### ■お問い合わせ

全学連携教育機構事務室（多摩キャンパス5号館ペデ下）  
TEL:042-674-3663  
WEB: <https://www.chuo-u.ac.jp/gp/flp/>



詳細はこちら